

# 進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.12.16

No. 67

## ならぬ堪忍、するが堪忍



どうしても我慢できないようなことを許すのを堪忍といいます。この堪忍の例として「韓信の股くぐり」という有名な話があります。

漢の統一における功労者であった大將軍韓信の若い頃、町の少年に「お前は背が高く、いつも剣を帯びているが、実際には臆病者に違いない。その剣で俺を刺してみろ。出来ないならば俺の股をくぐれ」と挑発されました。韓信は黙って少年の股をくぐり、周囲の者から大いに笑われましたが、「恥は一時、志は一生。ここでこいつを切り殺しても何の得もなく、それどころか仇持ちになってしまうだけだ」と冷静に判断したのです。

韓信は偉い武将になるという大望を抱いていたからこそ股くぐりもできたということで、ここから、大志を抱く者は目の前の小さな恥辱などには耐えなければならないという例え話として用いられるようになりました。

この様に許し難い屈辱といわないまでも、日常生活の中では上司に怒られたり、人との関わりの中で我慢の出来ない怒りを感じたりすることがあるかもしれません。こんな時に、すぐに反抗的になって、言葉を荒らげて相手に噛みついたり、辞表を出したりするような短絡的な行動は慎むべきでしょう。

ものごとは許せることと許せないことがあるのも事実ですが、人間関係でおきたトラブルについては、一旦は忍の一字で引き下がり、後で冷静な判断にもどったとき解決を求める方が、適切な行動がとれるものです。

また、韓信が耐えることができたのは、彼には大志があったからで、その希望をかなえるためには小事にかかわってはいけない、という自戒の念が強かったからだと思います。

一般的には、そのような境地に到達するのは難しいものですが、世の中に出たとき耐えることも必要です。皆さんも是非「ならぬ堪忍するが堪忍」という言葉をかみしめて欲しいものです。



## 先輩の活躍

先日名古屋学院大学より、2007年本校を卒業し同校の経済学部へ進学した先輩が、卒業研究で同校の学内審査で優秀者6組の内の一として選ばれ、その発表会があるので是非参加して欲しいという案内を戴きました。

また日本工業大学からは3年ほど前に本校の普通科を卒業した先輩が、学内でトップクラスの成績をおさめているという報告も戴いています。卒業生が頑張っているという報告は学校としても嬉しいものです。

皆さんが卒業後も皆さんの進学先の大学や専門学校から卒業生の様子の報告が必ず高校にあります。進学者は進学後もしっかり頑張ってもらいたいものです。